

福子物語
日記

十六篇上

^ 13
3702
13



門へ13
 號3702
 卷13



壹

那大津繪の端唄る塗笠
 娼妓の借閣く鷹の据ねど
 か少年の左右流行草及紙多門之助と
 谷五郎が出會の場も編つけられの爰等で
 作者も發起しく短く局を結ぶるを福祿壽
 天肉の最長く指子を架てる及びる上の上も
 考て思ふ的へまらりと申す積りの矢の根五郎も
 締らりる於座頭の積鼻禪只ねららると瓢箪で
 態を押さするを記しとらるる嗣輯とす

丁卯春新鐫

為永春水焉

丁卯春新鐫

北条時宗

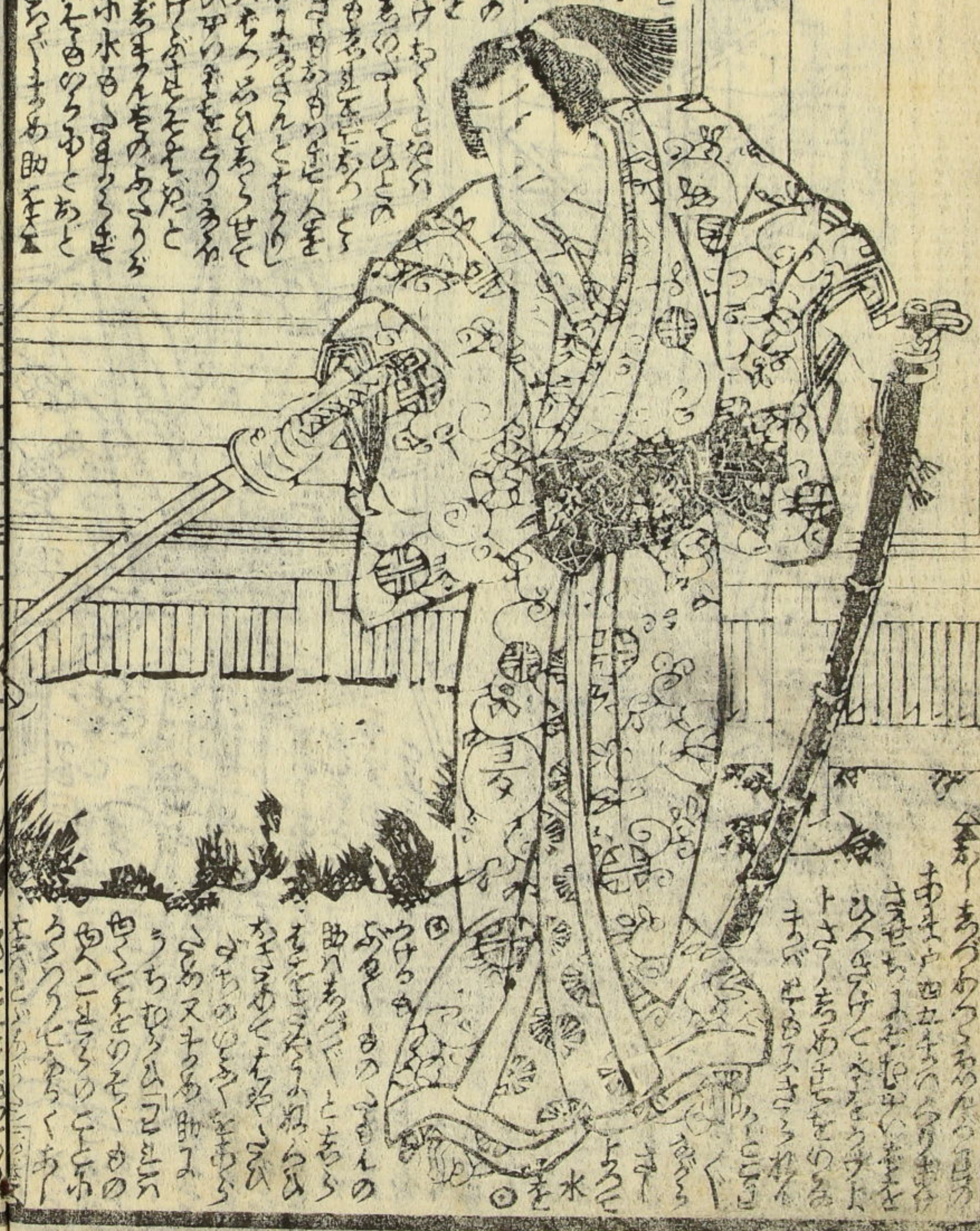
南無妙法蓮華

蒙古の船將范文



つねめき
はなをばり
りびつ
おもむき
るた

こころふあちと
あまこてての
きふちたぶ
とれまらり
きふちたぶ
はなをばり
りびつ
おもむき
るた



あまこてての
きふちたぶ
とれまらり
きふちたぶ
はなをばり
りびつ
おもむき
るた



のまらり
きふちたぶ
とれまらり
きふちたぶ
はなをばり
りびつ
おもむき
るた



あまこてての
きふちたぶ
とれまらり
きふちたぶ
はなをばり
りびつ
おもむき
るた



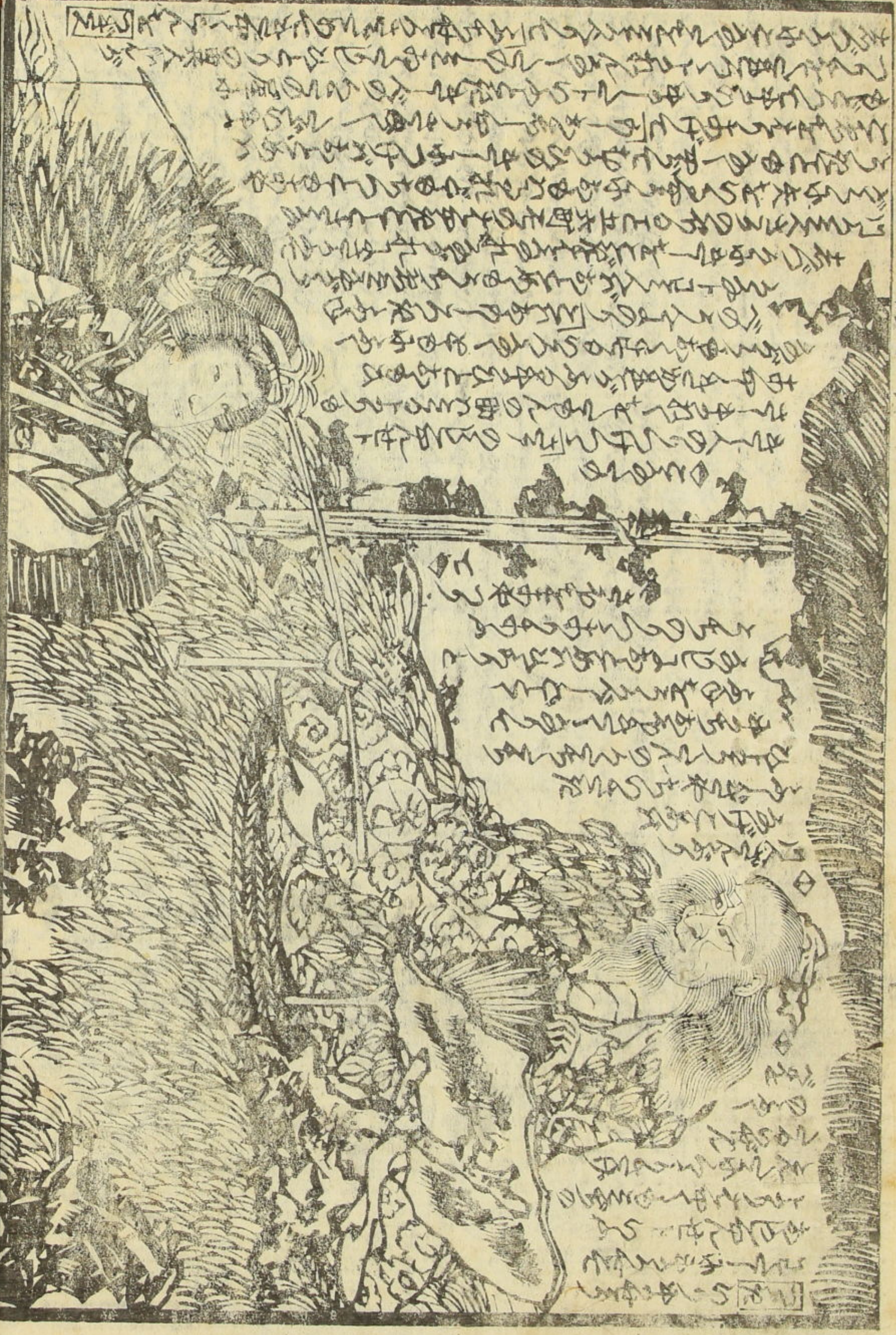
17. 11. 11. 11.

11



17. 11. 11. 11.

11



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, is arranged in vertical columns. The text is positioned above and below the illustrations on the right page. The script is dense and fills most of the page area between the illustrations.



八
五
一
七

八

